



火焰太鼓山車 宇都宮で江戸時代から続く「菊水祭」で巡行された山車の一つ。44カ町の山車、屋台が繰り出した大正2(1913)年が最後の巡行で、市街地に電線が張られると大きな山車はひきにくくなり、昭和初期には祭りの規模も縮小。宇都宮空襲で多くの山車が焼失したが、火焰太鼓山車は戦災を免れ、昭和55年に市に寄贈された。

昨年10月、約1000年ぶりに宇都宮市中心部での巡行が復活した「火焰太鼓山車」が1日開幕した。「ふるさと宮まつり」で雄姿を再び披露した。今回は最終修復完了を祝い、宇都宮城址公園(同市本丸町)から宇都宮二荒山神社前のパンバ広場(同市馬場通り)を巡行、まつりを盛り上げた。2日も市内を巡行する。

火焰太鼓山車は、江戸時代以降、宇都宮の旧新石町(現在の宇都宮市伝馬町など)が所有。各町が競って豪華な山車、屋台を出していた中でも高さ8・9メートルある壮観な山車だった。戦災は免れたが、動力部分は

火焰太鼓山車 雄姿再び

宮まつり 宇都宮市内を巡行

この日午後、炎天下の巡行に子供たちも参加。宇都宮駅東お囃子連のメンバーで、パンバ広場ではワークショップとして、山車の前でお囃子を披露した。市立峰小学校6年の大桶統士君は山車の装飾を見て「繊細な技術が受け継がれている」、市立今泉小学校5年の山崎碧生さんは「山車は大きくて龍と花の彫刻がすごい。お囃子は暑いけど楽しい」と笑顔だった。

失われていた。復元に向けて平成23年から市民プロジェクトが始動。3年がかりで昨春秋、市内巡行が復活した。今回は、宮まつり40回目を記念して再び巡行の機会がめぐってきた。



しい」と笑顔だった。山車復活プロジェクトの中心メンバー、檜山昌彦さんは「大勢の市民が参加する宮まつりで多くの人に地

火焰太鼓山車の前でお囃子を奏でる子供たち
11日午後、宇都宮市馬場通り
域の誇りを感じてもらいたい。保存だけでなく巡行を継承するため、若い人、子供たちに関心を持ってもらいたい」としている。

同まつり最終日の2日は夕方、同まつりでにぎわう本町交差点で展示。夜、城址公園に向かう。